

菰野町まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成 27 年 10 月

目 次

I	はじめに	
1	総合戦略の位置づけと役割	1
2	総合戦略の計画期間	1
3	人口の将来展望と対策	1
II	総合戦略の基本的な考え方	
1	基本的な視点	2
2	めざす姿	2
3	基本目標	2
III	戦略の基本的方向と主な事業	
1	結婚、出産、子育てがしやすく、その希望がかなう	3
2	交流が活発で、人が集まり、賑わいがある	5
3	農林商工業が元気で、町内や近隣市町に多様な働く場がある	7
4	豊かな自然を活かし、安全安心で穏やかな生活ができる	9
IV	戦略の推進にあたって	
1	住民、企業等との情報共有	11
2	戦略の推進体制	11
3	効果の検証体制	11

I はじめに

1 総合戦略の位置づけと役割

この「菟野町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「本戦略」という。）」は、平成26年11月に制定された「まち・ひと・しごと創生法」に位置づけられた地方版総合戦略であり、国の総合戦略、県の総合戦略を勘案しつつ、別途策定する「菟野町人口ビジョン」と一体として策定するものです。

本戦略は、本町の最上位計画である菟野町総合計画と整合したものであると同時に、本町における地方創生の取組の基本を定めるものであり、また、地域の特色や地域資源を活かした住民に身近な施策を盛り込み、多様な主体で構成されるまちづくりの協働パートナーと考え方や目標を共有するためのものです。

さらに、本戦略は、県の総合戦略と車の両輪として、相乗効果を発揮しながら地方創生を進めるものであり、あわせて、周辺市町との連携、協力を図るものです。

2 総合戦略の計画期間

本戦略は、平成27年(2015)度から平成31年(2019)度までの5か年の戦略です。ただし、社会経済情勢の変化等に伴い、随時、見直しを行うものとします。

3 人口の将来展望と対策

本町は、未だ人口減少局面に入らず、人口が徐々にですが増加し続けているまちです。しかし、そう遠くない時期に人口はピークを迎え、人口減少が始まることが予想されます。

そして、国立社会保障・人口問題研究所将来人口推計の傾向で人口減少が進むと、2060年には32,000人あまりの人口となり、多くの高齢者を少ない現役世代が支えなければならない人口構造になると考えられます。

人口減少と人口構成が変化する負の影響をできる限りなくし、将来にわたって活力を維持できる持続可能なまちづくりに向けては、「釣鐘型」である現在の人口バランスを維持し、一定の合計特殊出生率の向上と、一定規模の転入超過を見込み、長期的に人口の安定状態をめざすことが重要です。

このため、現行の重点的に実施している子育て支援策を継続し、子どもを産み、育てやすい環境づくりを進めることによって出生率の向上を図るとともに、町内や周辺地域における雇用の場を確保するなど、転入を望む人が増える環境整備が必要となります。

本戦略では、こうした対策を展開していくための取組の基本的方向と具体的な事業を定めます。

II 総合戦略の基本的な考え方

1 基本的な視点

本戦略は、国の総合戦略に盛り込まれた「まち・ひと・しごと創生」政策5原則（自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視）の趣旨を踏まえて効果的に施策を推進することとします。つまり、地域の構造的な問題に対処し、行政のみならず住民や企業などが主体的かつ自立的に活動を展開することを通じて、「しごと」と「ひと」の好循環を確立していくことをめざします。

さらに、新名神高速道路の開通、東京オリンピック・パラリンピックの開催など、地方創生に影響を与えると考えられる大きな機会を好機ととらえ、関連する取組を推進していきます。

あわせて、「菟野町人口ビジョン」において示した人口の将来展望に沿って、人口の自然減対策と社会減対策のどちらにも偏ることなく、バランス良く取り組むことによって双方の対策の相乗効果を発揮させます。

また、本町の地域特性を前面に打ち出し、地域資源を活かし、地域の実態に合った戦略としつつも、町内ですべてを完結させるのではなく、広域的な連携を視野に入れて、さまざまな地域課題の解決に取り組むこととします。

2 めざす姿

基本的な視点のもと、「菟野町人口ビジョン」において示した人口の将来展望に沿った人口減少対策に取り組むにあたっては、総合計画の「まちの将来像」と同様、「**自然の中に人々が集う、笑顔と活力のまち 菟野**」をめざすこととします。

3 基本目標

めざす姿の実現に向けて、国や県の総合戦略も勘案し、次の4つの基本目標を設定し、これらの柱立てにより戦略を構築します。

- 1 結婚、出産、子育てがしやすく、その希望がかなう
- 2 交流が活発で、人が集まり、賑わいがある
- 3 農林商工業が元気で、町内や近隣市町に多様な働く場がある
- 4 豊かな自然を活かし、安全安心で穏やかな生活ができる

Ⅲ 戦略の基本的方向と主な事業

1 結婚、出産、子育てがしやすく、その希望がかなう

本町では、子育て世代の転入が続き、安定した出生数を維持してきました。しかし、国全体の合計特殊出生率も伸び悩んでおり、本町においても平成 25（2013）年以降は出生数が減少傾向にあるのが実情です。

将来にわたって安定した人口構成を維持していくためには、出生率の向上が欠かせないことから、結婚や出産に希望が持てるとともに、安心して子育てができるよう、出産から子育てにわたる一貫した重点支援を行うことが重要です。

数値目標

指 標 名	合計特殊出生率	現 状	1.56	目 標	1.60
		※現状値は H21～25 年の平均値 目標値は人口ビジョンのシミュレーション設定値（H31 年）			
指 標 名	待機児童数（人）	現 状	0	目 標	0
		※現状値は H26 年度末の値 目標値は H31 年度末の見込み値			

※数値目標及び重要業績評価指標（KPI）については、特別に記述がない限り目標年度における数値（累計数値）として設定した。次ページ以降についても同様

(1) 結婚、出産に希望が持てる情報提供の充実

結婚、出産を希望する人が、将来安心して結婚、出産ができるよう、さまざまな情報の発信、妊産婦に対する情報提供、妊産婦教室などにおける相談支援を行います。

重要業績評価指標 (KPI)

指標名	基準値		目標値	
菰野町における生涯未婚率 (%)	H26	男性 13.5 女性 5.9	H31	男性 13.5 女性 5.9
妊産婦教室参加者数 (人)	H26	189	H31	200

(2) 子育てに関する包括的な支援の充実

住民同士のつながりによって子育ての負担感が軽減されるよう、保育園等の園庭開放を進めるとともに、住民主体の活動を支援します。

あわせて、地域の中で安心して子育てができ、家庭と仕事との両立を図ることができるよう、子ども・子育て支援制度にもとづく包括的な支援体制を構築するとともに、保育事業及び特別保育や放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て支援事業を円滑に実施していきます。

重要業績評価指標 (KPI)

指標名	基準値		目標値	
保育園等の園庭開放への来訪者数 (延べ人数)	H26	2,008	H31	2,100
ファミリーサポートセンター利用数 (件)	H26	1,057	H31	1,199
子育てサロンの開催回数 (回)	H26	134	H31	134
放課後児童クラブ利用者数 (人)	H26	200	H31	356
子育て支援センター利用者数 (人)	H26	12,896	H31	21,444
病時・病後児保育利用数 (回)	H26	13	H31	27
時間外保育利用者数 (人)	H26	180	H31	159

2 交流が活発で、人が集まり、賑わいがある

本町には、湯の山温泉と御在所岳を中心とする観光資源があり、年間約 200 万人の観光客が訪れます。近年では新たな立ち寄り施設も生まれ、名古屋圏などからの入込客が増加しています。こうした観光客の増加は、その直接的な効果にとどまらず、まちのイメージアップなどの間接的な効果も期待できます。そのことは、菰野町の認知度を引き上げ、訪れたいまちから住みたいまちへと展開していくことにもつながります。

こうした人びとの滞在時間をさらに延長し、宿泊につなげていくためには、既存の観光資源に磨きをかけつつ、それぞれの観光資源をつなぎ、志向に合わせてメニュー化していくことが必要です。それとともに、障がいの有無や国籍の違いなどによって分け隔てられることなく訪れることができる、ユニバーサルな観光地をめざすことが求められます。また、観光事業者だけで誘客を考えるのではなく、農業者や商工業者、地域住民などの連携によって、観光客の誘致が地域経済全体に波及すること、さらに住民全体の生活満足度の向上にまでつながることが重要です。

数値目標

指標名	観光入込客数（万人）	現状	248.2	目標	258.2
		※現状値は H26 年の実績値 目標値は H31 年の見込み値 ※数値は 1～12 月における入込客数 （日帰り、宿泊の合計）			
指標名	5 年間の転入超過数（人）	現状	765	目標	558
		※現状値は H22～26 年の住基データ 目標値は人口ビジョンのシミュレーション設定値（H27～31 年）			

(1) 地域資源を活かした観光の振興

平成 30（2018）年度の菰野インターチェンジ(仮称)の開設などを契機ととらえ、空き店舗の活用による温泉街の景観の向上、ユニバーサルデザインに配慮した環境整備やスポーツイベント等の実施、地域資源の価値創造による新たなメニューづくりなどを通じて、観光事業者だけでなく、農業者、商工業者などの連携によって本町を訪れるさまざまな機会を創出し、観光入込客を増加させることにより、観光事業における雇用の創出につなげます。

あわせて、都市部の住民と町内の観光事業者等との交流の場をつくったり、シネマツーリズムを通じて大学生と地域住民との交流を促進したりするなど、多様なチャンネルや交流機会を通じて本町の魅力を発信し、さらに転入者の増加にもつなげます。

重要業績評価指標（KPI）

指標名	基準値		目標値	
	H26		H31	
外部人材の提案による新規情報発信数（件）	H26	1	H31	6 (累計)
ショートフィルムフェスティバルによる菰野町ストーリーの情報閲覧数（件）	H26	-	H31	5,000 (累計)
湯の山温泉入込客数（万人） ※1～12月（日帰り、宿泊の合計）	H26	184	H31	200
ユニバーサルデザイン公衆トイレ新規設置数（箇所）	H26	-	H31	5 (累計)
湯の山温泉街の空き店舗数（件）	H26	14	H31	9
ハーフマラソン参加者数（人）	H26	5,000	H31	5,000

(2) 海外からの観光誘客の促進

アジア諸国を中心とした海外からの観光誘客（インバウンド）に向けて、外国人観光客の受け入れ対応のためのおもてなしやコミュニケーションの円滑化、案内看板における外国語表記などといった受け入れ環境を整備するとともに、観光プロモーションを実施し、外国人観光客の志向を把握することにより、本町の地域資源を活かした観光メニューの創出を図ります。

重要業績評価指標（KPI）

指標名	基準値		目標値	
	H26		H31	
おもてなし研修会参加者数（人）	H26	-	H31	450 (累計)
海外における観光産業プロモーション実施件数（件）	H26	-	H31	5 (累計)
湯の山温泉街における外国語表記サイン設置件数（件）	H26	3	H31	10 (累計)

3 農林商工業が元気で、町内や近隣市町に多様な働く場がある

地方創生においては、地域固有の資源や特徴を活かして、都会や他の地方にない魅力を生み出すことが重要です。本町は、永らく農業を基幹産業として発展してきたまちであり、近年も、その名の由来ともなっているマコモの振興など、新たな特産品開発を進めています。こうしたまちの特徴を活かすことが、小規模でも持続的な雇用の場をつくることになるため、農林業を基軸として他産業との連携を図り、新たな事業を生み出していくことが重要です。

また、農林業に加え、観光や健康、福祉に関連する産業などは、生涯現役で働き続けやすい分野だと言えます。こうした産業における雇用の場を確保して、生活スタイルの多様化に応じた働き方ができることも必要です。

人の定住化、中でも若者の定着を図るうえでは、雇用の場が欠かせません。しかし、本町は昼夜間人口比が85%程度であるように、町内に住み、町外に働きに出る人が多いまちでもあります。今後も、自然が豊かなベッドタウンとしての強みを保ちつつ、町内においても多様な雇用の場ができることが、若者世代の人口を維持していく上では重要です。

数値目標

指標名	青年新規就農者数（人）	現状	2	目標	9
		※現状値は H26 年度の実績値 目標値は H31 年度までの累計値			
指標名	菰野町の生産年齢人口に占める 就業者の割合（%）	現状	72.0%	目標	75.0%
		※現状値は H22 年国勢調査の実績値 目標値は H31 年の見込み値			

(1) 農林業及び関連産業における雇用の創出

本町の特性を活かした産業である農林業について、マコモをはじめとした町産品の生産を促進するとともに、他産業との連携の中から新たな事業の可能性を見出すことによって経営の安定化を図り、新たな雇用の創出とともに後継者不足の解消を図ります。また、耕作放棄地対策や獣害対策、森林の環境整備などについても、他産業との連携など、新たな視点を持って有効な対策を進めます。

あわせて、食を通じて商工業者や観光事業者などと連携するなど、農(林)商工連携につなげることにより、関連産業における雇用の創出を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)

指標名	基準値		目標値	
	年度	数値	年度	数値
食の観光推進イベント実施回数 (回)	H26	1	H31	6 (累計)
耕作放棄地面積 (ha)	H26	15	H31	15
有害鳥獣被害額 (万円)	H26	2,215	H31	1,500

(2) 町内外における雇用の場の確保と多様な働き方の実現

多様な働き方が実現できるよう、町内の地域資源を活かした自然体験などの観光や健康づくりの分野、及び今後需要が見込まれる介護、福祉分野などにおける雇用の創出につなげるとともに、子育てしながら働ける環境づくりを進めます。

あわせて、町内及び周辺市町において働きたい人に対し、希望する職が得られるよう、周辺市町や企業等との連携のもとで、雇用に関する情報提供を充実させるとともに、雇用のマッチング機能を強化し、通勤圏内での雇用の確保を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)

指標名	基準値		目標値	
	年度	数値	年度	数値
多様な働き方に関する情報提供数 (回)	H26	-	H31	200 (累計)

4 豊かな自然を活かし、安全安心で穏やかな生活ができる

人びとが健康的に生活し、働くうえでは、それを支えるまちの環境が整っていることが重要です。本町は、住民アンケートでも「住みやすい」「住み続けたい」という回答が常に80%を超え、住民満足度の高いまちであると言えます。こうした状況を将来にわたって維持していくためにも、豊かな自然・田園環境と調和しながら、住みやすい機能を整えていくことが重要です。

一方、本町は各区（自治会）を中心としたコミュニティ活動によって地域づくりが展開され、本町の個性を生み出すとともに、強みにもなっています。新たな転入者を受け入れつつ、つながりの風土である自助、共助の活動を維持、向上していくことが、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めるうえで非常に重要です。

数値目標

指標名	住民アンケートで「住みやすい」と回答した人の割合（％）	現状	85.6	目標	85.6
		※現状値は H27 年度調査の結果 目標値は H31 年度の見込み値			
指標名	健康寿命と平均寿命の差（年）	現状	男性 1.9 女性 5.1	目標	男性 1.8 女性 5.0
		※現状値は H25 年度の実績値 目標値は H31 年度の見込み値			

(1) 快適な生活基盤の整備

本町の地域特性を活かした魅力ある暮らしを支えるため、水道や下水道、生活道路などの生活基盤を整えるとともに、特定空家についても対策を進めます。

また、新名神高速道路の菰野インターチェンジ(仮称)周辺については、魅力的な居住環境となるよう、計画的な土地利用を促します。

重要業績評価指標 (KPI)

指標名	基準値		目標値	
菰野インターチェンジ(仮称)周辺土地利用計画策定	H26	-	H31	1
特定空家の指定件数 (件)	H26	-	H31	50

(2) 安心な地域コミュニティづくりの促進

子どもから高齢者まで、永年暮らす住民や新たに住み始めた住民のだれもが健康に安心して地域で暮らし続けられるよう、集いの場の提供を支援するなど、地域における健康づくり活動、介護予防活動、コミュニティ活動、見守り支援活動、生活支援活動、交流活動等を促進します。

また、民間事業所の AED の利活用や、自主防災組織の強化及び消防活動を後方支援する菰野町消防支援隊を組織するなど、緊急時における安全確保を図るための体制を整備します。

重要業績評価指標 (KPI)

指標名	基準値		目標値	
交流サロン参加者数 (人)	H26	6,330	H31	6,500
地域コミュニティ支援員派遣回数 (回)	H26	1	H31	8 (累計)
地域住民による健康、介護予防活動開催回数 (回)	H26	110	H31	170
ウォーキングイベント等参加者数 (人)	H26	-	H31	500 (累計)
AED の設置サポート事業所認定数 (件)	H26	-	H31	100
消防支援隊隊員数 (人)	H26	-	H31	100
自主防災組織アドバイザー養成数 (人)	H26	-	H31	17
防災訓練及び救命講習の開催件数 (件)	H26	55	H31	275 (累計)

IV 戦略の推進にあたって

1 住民、企業等との情報共有

本戦略の推進にあたっては、まちづくりを行う多様な主体との協働のもとで、めざす目標を共有しながら総合戦略を進めることが重要であることから、本町の状況などを住民に分かりやすく情報提供し、住民や企業などとの情報共有を行います。

2 戦略の推進体制

本戦略の推進にあたっては、庁内の施策管理体制のもと、個々の事業レベルでPDCAサイクルによる進行管理を適切に行い、取組を進めます。

3 効果の検証体制

本戦略については、前述の施策管理体制のもと、外部有識者会議において戦略の評価、検証を行い、施策推進の改善につなげることにより、実効性を発揮させます。